

< 目 次 >

- 1 【 実践事例 】 「一方井小学校実践区（岩手町）」《家庭学習の充実》
 - 2 【 運動推進 】 誇り胸に取り組もう
 - 3 【 教振は今 】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 4 【 みんなの声 】 ペっこ言い隊
 - 5 【 編集後記 】 あつしのひとりごと
-

1 【 実践事例 】 「一方井小学校実践区（岩手町）」《家庭学習の充実》

一方井中学校区の3校（一方井小学校、浮島小学校、一方井中学校）は、連携して家庭学習の充実に取り組んでいます。学習情報を交換し合い、同じ地区の子どもたちを小学校から中学校まで9年間の見通しをもって育てることで家庭学習の習慣化を図るとともに、中1ギャップの解消にもつながる取組となっています。取り組む中で明らかになった課題の解決方法ヒント集も作成し、活用しています。

事例は⇒http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_ikkatai.pdf

資料は⇒<http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/ikkatai-siryou1.pdf>

<http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/ikkatai-siryou2.pdf>

<http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/ikkatai-siryou3.pdf>

2 【 運動推進 】 誇り胸に取り組もう

教育振興運動の生みの親、工藤巖元県知事の命日である8月25日、岩手日報の「風土記」に教育振興運動が取り上げられました。提唱された背景を記したうえで、運動の精神は脈々と継承されてきたが、様々な教育問題に対応する中で焦点がぼやけ気味、よかれと思って与えた勉強部屋が家族を隔絶しかねないと心配し、「今、（工藤元知事に）教育の話をしたら、どんな言葉をくれるだろう」と結んでいました。

新聞に指摘されるまでもなく、活動のマンネリ化や運動組織の硬直化等の課題を解決すべく、平成17年度より『10か年プロジェクト』に取り組んでいます。地域の教育課題を再確認するとともに推進組織のあり方を見直す“見直しの3年”を経て、平成20年度からは“実践の3年”として取り組んできました。

また、平成21年度より、岩手県の喫緊の教育課題である「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」を全県共通課題とし、活動の焦点化を図っています。今年は節目の年として、これらの成果と課題を確認することになりますが、胸を張って、工藤元知事に「安心してください」と言えるでしょうか。

先の「風土記」の記事を受けて、9月7日の岩手日報には一関市在住の77歳の方の投書が掲載されていました。1968年度版の「教育振興運動の歩み」の中から、「子弟の教育は、まず親から」という目標を立てて、毎月15日に保護者や地域の大人が集まる座談会を開き、教育について話し合っていた旧大東町天狗田地区の様子を紹介したうえで、最近の教育の現状を考え、「教育の中から地域という言葉が忘れられ、家庭での教育力が叫ばれて久しい。5者の機能を果たす教育振興運動に工夫が必要ではないか。」と提案されていました。

「風土記」や「投書」から、教育振興運動の活動が十分に地域には伝わっていないことを反省するとともに、地域における教育基盤としての教育振興運動に対する期待の大きさを改めて感じたところです。天国の工藤元知事のみならず、地域の皆さんに、いつも見守られていることを肝に銘じて、運動に取り組んでいきましょう。教育振興運動は、やはり岩手の誇りなのだと痛感しました。

3【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

- (振ちゃん) 先週は、メルマガ史上“初”の号外の発行でびっくりしたね。
(教ちゃん) メルマガ史上・・・なんて、大げさねえ。
(振ちゃん) 楽しそうなフォーラムだね。早速、申込が届いているそうだよ。
(教ちゃん) 定員があるからね。早めに申し込んでおくと安心よね。
(振ちゃん) より多くの皆さんの学びの機会となるように、学校・地域・行政から、保護者や地域の皆さんに情報提供をしてください。改めて、お願いします。
(教ちゃん) 参加者の皆さんには、私たちの「やろうよ（家庭学習の充実）」と「読もうよ（読書活動の推進）」の缶バッチをプレゼントすることになっているの。
(振ちゃん) 教育振興運動“初”の缶バッチは、レアな一品だよ。
(教ちゃん) もう……。振ちゃんは、“初”物好きなんだから……。

案内チラシ⇒<http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/H22dokusyoforum.tirasi.pdf>

申込用紙⇒<http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/H22dokusyoforum.mousikomi.pdf>

4【みんなの声】ぺっこ言い隊

- (1) 我が家の向かいに、ある小学校の野菜畑があります。毎年ナスやミニトマトなどが育っています。それが今年はちょっと様子が違います。5月の発芽時期には、苗床をミニビニールハウスで覆ったり、ビニールを張ったり、その後は箒をかけたり、添え木をしたりと、・・・本格的なのです。

40代ぐらいの男性の先生が、土日にひとりで畑づくりや水やりをしています。子供たちも毎朝、登校時に水やりをしています。早生の枝豆や小玉スイカは既に収穫し、新たに大根を植えたそうです。私は日中不在のため、残念ながら青空教室の様子は見ることはできません。

んが、野菜作りにかかる手間暇や愛情はしっかり子供たちに伝わっているようです（M市Fさん）

(2) ようやく？夏休みが終わりました。我が家における夏休み後半の恒例行事と言えば、読書感想文です。

長い夏休みにおいて、まずは5教科の宿題をやり、その後は工作や絵を手掛け、いつも最後に読書感想文が残ります。いつも登校日前日に書いています。書き終えるまでずっと大騒ぎで、本人は勿論大変でしょうが、家族も大変です。

本は良く読むのですが、感想文となるとやる気が出ないようです。さて、どういった具合に進めると、スムーズに取り組めるのでしょうか？

（H町Cさん）

⇒感想文は、自分の考えをまとめるもの。その時、大切なはその子の考えを否定したり、親の考えを押し付けたりしないことです。そのうえで、「どう思う？」、「この時、どうすれば良かったと思う？」、「そうだね。じゃあ、自分ならその時どうするかな？」とその子の考えを引き出し、ほめてあげ、「今のことを、文章にすればいいんだよ」と教えてあげれば、子どもは自信を持って書くことができます。

ということは、親も同じ本を読む必要がありますね。親子読書です。

4 【編集後記】あつしのひとりごと

働くお母さんが増える中、最近、子育てに熱心なお父さんが「育メン」と呼ばれています。10月24日（日）に開催する「子育てに活かす読書活動推進フォーラム」では、NPO法人“ファザーリング・ジャパン”の理事である東浩司さんを迎えて、お父さんの育児を考える座談会をおこないます。

時代は今、「育メン」を求めています。お父さん、集まれ！もちろん、お母さんも大歓迎！夫婦で、男性の子育て参画について話し合う機会にしてください。

⇒ 第29号は、9月28日（火）配信です。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

~~~~~配信元~~~~~

\* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

\* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

★平成21年度配信のバックナンバー（第1～17号）はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index5.html>

★平成22年度配信のバックナンバー（第18～26号）はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index8.html>

★平成21年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index3.html>

★平成22年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index6.html>

~~~~~